

令和4年度(第34回)ポンペ賞受賞者



長崎大学医学部の創設者であるポンペ・ファン・メールデルフォールトを記念して新卒業生を対象にポンペ賞が設けられています。

ポンペ賞では卒業成績が上位3位までの方、社会福祉事業などでの献身的な活動を行った方や全国レベルの競技会で優勝などした方に贈られます。

受賞者には表彰状とともにブロンズのポンペのレリーフをはめ込んだ盾が贈られます。

今年度受賞されたのは成績優秀者として茂山 航大さん、栗津 学さん、橋本 康史さんの3名とポンペスポーツ賞として越 悠仁さんです。

4名の先輩方、おめでとうございます。

受賞者の方々、そして今年卒業して研修医としての道を進まれている卒業生の皆様が良医としてこれからたくさん経験と実績を積み上げることを願っています。

成績優秀者 (学業成績 上位3位)

ポンペスポーツ賞



茂山 航大さん



栗津 学さん



橋本 康史さん



越 悠仁さん



編集長

夫津木綾音 (学生会 広報部)

編集部

長崎大学医学部ぐびろが丘編集部

長崎医学同窓会

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

☎095-848-5484

E-mail: ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

印刷

株式会社インテックス

新入生歓迎会～生協パーティー～

今回、実に数年ぶりの開催となった生協パーティー。新入生100名弱、サークル紹介30団体弱の参加と大盛況ぶり。「生協にこんなに人が集まっているところを久しぶりに見た」、「コロナ前みたいに活気が戻っているようで嬉しい」といった声を当日よく聞きました。新入生の顔も在学生の顔も一段と晴れやかだったように思えます。

九山や西医などの大会や、サークル活動も今年度は順調に開催予定で、講義においても病院実習以外はマスク着用任意となり、講義室の制限もなくなりました。着実に“Back to normal”を感じます。そんな中、入学された新入生の方々は幸運でしょうし、我々在学生も喜ばしく思います。学業、課外活動、人生経験、何においても実りある学生生活を送れるよう一同祈っています。

**新入生の皆さん、長崎大学医学部へ、ようこそ！
ご入学おめでとうございます！**



ゴスペラースも顔負けのラグビー部



主催運営の学生会



新入生たち

海外リサーチ体験記

アンジェ大学でのリサーチセミナーを通して

川合由揮さん

私はリサーチセミナーの期間をフランスのアンジェ大学で研修させていただきました。海外の研究で体験させていた多くのことがとても貴重な経験になりました。

私が配属された研究室はアンジェ大学病院の中毒管理センターでフランス西部地区の中毒症状を呈した患者さんの症状や経過などのデータを集めて統計をとる研究を行っています。研究室

は医師、看護師、技師、院生、学生と常に20人以上の人がいて英語がわからない人もいてフランス語がわからない私からしたら大変な状態でしたがゆつくり質問したらみんな優しく教えてくださっ



研究室

たので英語で日常的にコミュニケーションを取るという意味でもとても有意義な研修になりました。

フランスという国はとも歴史が深く、私はたくさん観光地を巡りましたが本場に日本とは違った文化によって構成された建築、芸術、街並みを見るのができます。渡航前に自分でフランスと日本の違いについてたくさん調べていきま



アンジェ



フランス観光

た。また、アンジェ自体も学生都市で治安が良くどことなく長崎と似たところを感じるとても住みやすい街でした。コロナ禍で久しぶりのリサーチセミナーで初めは不安なことも多かったですが行ってみるととても新鮮で貴重な体験ができました。皆さんも少しでも興味があればぜひ躊躇わずに海外リサーチセミナーに参加してみてください。しっかり語学の勉強をしていけば素晴らしい経験になって将来に必ず役に立つと思います。

ドイツ・ヴュルツブルクでの心躍る留学生生活

浦野あおいさん

私は、三年生後期の七十日間、ドイツのヴュルツブルク大学でリサーチセミナーを行いました。派遣先としてドイツを志望したのは、西洋医学の歴史から、私には「ドイツ医学」というイメージがあり、医師を志す者としてかねてから憧れを抱いていたからです。教養教育の第二外国語でドイツ語を選択し、ドイツの言語や文化に親しみをもたせ、先生がよくおっしゃっていた「みなさん、将来ドイツに行きますよね?」という言葉に背中を押されました。選考や準備にあたっては、英語で自分の考えを示し、派遣先のやり取りなど主体的に動くことが求められるに苦勞することもありました。しかし、ドイツでの日々は、まされもなく私の人生史上最高の時間であり、貴重な経験であふれたいと思います。最後になりましたが、お世話になった篠原先生、中畑先生、Professor Simona De Falco、今回の留学をサポートしてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

フットと格闘したり、非常に新鮮な活動に集中して取り組める環境でした。また、研究室の方の学位審査会とその後の祝賀会を体験したことで、学位の意義の大きさを実感しました。コミュニケーションはすべて英語で、質問を箇条書きでまとめて面接に臨み、話の概要をメールで送っていただくなどの工夫をして乗り切りました。研究者たちと毎日一緒に昼食を取る中で、会話の登場人物や最近話題となっていることが理解できるようになり、嬉しかったです。成果発表としてラボミーティングにてプレゼンテーションを行い、研究者から質問や意見をいただきました。ちなみに、ドイツでは発表のあと一斉に拳で机をたたいて発表者をたたえます。暮らしについては、海外に住むこと、そして一人暮らしをすることの両方が初めての試みでした。今回、ドイツへの派遣が一人だったため、分からないことはすべて人に質問したりドイツ語を解読したりして解決する必要がありました。そのため、生活をするだけでも自主性が問われ、毎日が刺激的でした。留学する上で大きな助けとなったのが、三人のチューターの存在です。彼らは、家族や友人を紹介して様々なアクティビティに誘ってくれ、そこで出会った人からまた、つながりが広がっていききました。彼らとの交流は、知らない環境に一人で飛び込

的にも知識の面でも抵抗なく、英語を流暢に話せることに感銘を受けました。チューターとの交流があったことで、とにかく英語を話して思いを伝える練習になりました。最後に、この記事を読んで海外リサーチセミナーが気になったみなさん、医学部で海外留学をしたいという強い気持ちがあれば、必ず有意義な挑戦になると思います。積極的にチャンスをつかみにいくことで、これまで想像もなかった新たな自分に出会えるはずですよ。ヴュルツブルク派遣を実現してくださった関係者の皆様と長崎大学の先生方からのご指導、奨学金でのご援助、事務手続きをはじめとするすべてのご支援に感謝申し上げます。

トレント大学でのリサーチセミナーを終えて

山口 楓華さん

2022年の12月末から2023年の3月末までの約3ヶ月間、北イタリアにあるトレント大学でエラスムス留学としてリサーチセミナーの研究活動を行いました。以前から、親子関係に関する心理学分野の研究に興味があったため、小児心理の分野で長崎大学と交流があるトレント大学への留学を希望しました。そのため、留学先では、希望していた小児心理の研究室に配属させていたいただき、同じ研究を行っている大学院生のサポートをえながら、小児の表情刺

激に対する成人の反応についての研究活動を行いました。研究活動では、小児心理について学ぶだけでなく、英語でのコミュニケーションを取り、専門用語なども学ぶことができ、日本では学ぶことのできない新たな知識をたくさん得ることができました。また、毎日研究室に通う必要はなく、自由時間も多かったため、観光やその他の留学生と交流をして日々を過ごしました。特に、わたしはエラスムス留学としてトレント大学を訪れたため、エラスムス留

学のようなプログラムに参加することができ、ドイツやブラジルなど世界中から来た留学生とトレントの街を回ったり、お酒を飲んだりして交流することができました。その中で、様々な国の人々の考え方や価値観を知ることができ、楽しい思い出だけでなく学びのある交流となりました。また、イタリアでの多くの時間を様々な地域を回って観光して過ごしました。ローマやフィレンツェ、ヴェネツィアなどの有名な都市から南はシチリアやナポリ、北は



トレントの街並み



世界遺産のチンケ・テッレ

ジェノバやトリノなど南から北まで様々な地域をまわったと思います。このように多くの時間を自由に使えることは普段なかなかないので良い機会でした。特に、交通手段などの情報が全くないマインナーな地域へ行く時、自分で計画を立て、言葉のわからない国で行動することは初めは不安でした。しかし、都市ごとに異なるイタリアの景色、

食べ物、美術館などの文化全てに感動し、知らない土地でもなんとかなるという自信を得ることができました。また、それだけでなく貧困、不法移民、物乞いなどの負の側面も目の当たりにし、世界の諸問題に関する自分の無知さに気づき、学びの必要性を感じました。このように、わたしのイタリアでの3ヶ月は、勉強ばかりでなく日本では

得られることのできない経験ができた刺激的な日々でした。今回経験したこと、感じたこと、自分が考えたことを大切に、将来の目標に繋げていきたいと思えます。最後になりましたが、お世話になった篠原先生、中畑先生、Professor Simona De Falco、今回の留学をサポートしてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

ずる研究室に所属し、日本人とドイツ人の性格的特徴やそれによるアパターの受け取り方の違いを分析しました。テキストを用いた統計の勉強や関連する分野の先行文献の読解からはじめ、指導者とともに研究計画を進めていきました。百台近くのカメラで撮影して、精巧なアバターを作成していただいたり、統計ソ

フトと格闘したり、非常に新鮮な活動に集中して取り組める環境でした。また、研究室の方の学位審査会とその後の祝賀会を体験したことで、学位の意義の大きさを実感しました。コミュニケーションはすべて英語で、質問を箇条書きでまとめて面接に臨み、話の概要をメールで送っていただくなどの工夫をして乗り切りました。研究者たちと毎日一緒に昼食を取る中で、会話の登場人物や最近話題となっていることが理解できるようになり、嬉しかったです。成果発表としてラボミーティングにてプレゼンテーションを行い、研究者から質問や意見をいただきました。ちなみに、ドイツでは発表のあと一斉に拳で机をたたいて発表者をたたえます。暮らしについては、海外に住むこと、そして一人暮らしをすることの両方が初めての試みでした。今回、ドイツへの派遣が一人だったため、分からないことはすべて人に質問したりドイツ語を解読したりして解決する必要がありました。そのため、生活をするだけでも自主性が問われ、毎日が刺激的でした。留学する上で大きな助けとなったのが、三人のチューターの存在です。彼らは、家族や友人を紹介して様々なアクティビティに誘ってくれ、そこで出会った人からまた、つながりが広がっていききました。彼らとの交流は、知らない環境に一人で飛び



研究室の仲間 ドイツ

私は、医学部3年の海外リサーチセミナーで1月から3月までの3か月間オランダのライデン大学に留学させていただいた。医学部4年の横山拓海です。この度は、このぐびろが丘新聞にて記事を書かせていただく機会を頂きましたので、僥倖ながら私の留学経験について少々お話をさせていただきます。

リサーチセミナーの期間、私はLUMC (Leids Universitair Medisch Centrum) と呼ばれるライデン大学の大学病院内にあるVascular researchの研究室で、動脈硬化などに対するバイパス手術によって動脈と動脈の間につながれ静脈グラフトが狭窄してしまうのを抑制するためにVerteporidという薬が有効かを評価するという研究を行っていました。静脈の壁の厚さは動脈壁よりも薄いため、動脈につなげられた静脈グラフトは動脈を流れる血液の圧負荷に耐



帰国日LUMCの近くのカフェの前で



帰国直前のプレゼンテーション

グにどのようなプロセスが関与しているのかを特定し、そこを治療標的とするので、リモデリングをいかに適切に制御するかというのが私の所属した研究チームの狙いでした。私がオランダに着く前から今回のプロジェクトは始まっており、私がオランダについてからは留置されていた静脈グラフトを取り出して、パラフィンで固定した後、それを薄くスライスしたものを一つ一つスライドにのせ、そのスライドを染色するところから始めました。その後は、ソフト

を用いて染色されたスライドのデータを解析し、Verteporidの効果の評価するとともに、ときには共同研究チームのミラノ大学の先生方ともオンラインでミーティングを行いながら、追加の染色を行い、データを解析しました。

また、毎週火曜日には私たちの研究チームとも一つ別の研究チームが合同でミーティングを行っていたのですが、ここでは自分の研究内容にも密接に関係する数多くの大学院生によるプレゼンを聞くことが出来たり、研究チームの方々のご厚意で大腸動脈にできた血栓を取り除くオペに立ち会わせて頂いたり、私の滞在期間中にライデンで行われたシンポジウムで、ハーバードやプリンストン大学で研究する先生方とも交流させていただきました。機会があったりと、まだ学生のうちに世界でご活躍されている研究者の方々が周りにいる環境で日々刺激を受けることが出来たというのは幸いです。



Vascular researchのPaul教授とNew Year partyで

リングと呼ばれる過程で血管壁を肥厚させますが、そのリモデリングが過度に起きてしまうと、せっかく移植した静脈グラフトは狭窄・閉塞してしまうので、

リモデリングにどのよう

最後にになりましたが、このような貴重な機会を下さった両親、先生方をはじめ、私の留学に携わって下さった全ての方々にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

ライデン大学での3ヶ月間

横山 拓海さん

デン大学に留学することが出来たからこそ得られた大変貴重な経験となりました。

長崎一人旅

旅人：大石 佳奈

今回は大石が一人旅をしました。ドライブで佐世保まで行きました。のんびりとした一人旅です。

13:00~

一人旅の出発。途中寄り道をして、西海でソフトクリームを食べました。晴天の中でのソフトクリームは美味しいです！私はこのソフトクリームがとても大好きで、西海を通るときはいつも寄っています。



店舗情報

JA 長崎せいひ グリーンセンター
住所：西海市西彼町小迎郷2819-1
営業時間：8時30分~18時

14:00~

Kayaで佐世保バーガー（スペシャルバーガーとチキンかつれつバーガー）を食べました。お昼を過ぎていましたが、店前は行列でびっくりしました。行くときは要予約です！ハンバーガーは普通のハンバーガーの1.5倍ぐらいあり食べにくいですが、ボリュームがありました。佐世保に行く機会があれば是非お試しに、、、！佐世保バーガーを食べた後は、佐世保公園に寄りました。木陰でのんびりと過ごしリフレッシュしました。



店舗情報

Stamina本舗 Kaya
住所：佐世保市大和町113
TEL：0956-34-4181
営業時間：10時~20時30分
定休日：月曜日
料金：600円~900円

15:00~

帰る途中で梅力枝酒造を訪れました。この酒造は江戸時代の建物を今も使用している歴史の長い酒屋さんです。古風な雰囲気が和みます。店内には日本酒、焼酎がずらりと並んでおり、スタッフさんがお酒の説明を一つ一つ丁寧にしてくれるので店内を回るだけでも楽しかったです。今回はすりおろした桃の果実が入っている日本酒と甘酒を購入しました。



店舗情報

梅力枝酒造
住所：佐世保市城間町317
TEL：0956-59-2311
営業時間：9時~18時（酒造見学は10時~16時30分）

16:00~

いさみ屋でいちご大福を購入しました。いさみ屋の店主はパリで腕を磨いた経験があり、このいちご大福には感動です。いちご大福を食べることができて幸せでした。



店舗情報

いさみ屋
住所：東彼杵郡川棚町栄町15-1
TEL:0956-82-2310
営業時間：8時~18時
定休日：水曜日、木曜日

九州・山口医学生体育大会 長崎大学 団体戦結果

| | 男子 | 女子 |
|-----------|---------|-----------|
| バレーボール | 優勝 | 準優勝 |
| 硬式テニス | 4位 | 準優勝 |
| バスケットボール | 4位 | 予選リーグ2位通過 |
| バドミントン | 予選リーグ敗退 | 3位 |
| 剣道 | ベスト8 | 予選リーグ敗退 |
| 弓道 | 優勝 | 個人ベスト4 |
| 柔道 | 優勝 | |
| 準硬式野球 | 2回戦敗退 | |
| ラグビー | 初戦敗退 | |
| サッカー | ベスト8 | |
| ソフトテニス | 準優勝 | 4位 |
| 水泳 | 6位 | 3位 |
| ウインドサーフィン | 6位 | |
| 陸上 | 優勝 | 準優勝 |
| 卓球 | 7位 | 3位 |
| フットサル | 準々決勝敗退 | 予選リーグ敗退 |

九州・山口医学生体育大会の結果をまとめました。4年ぶりの開催ということもあり楽しみにしていた学生も少なくないのではないのでしょうか。主幹をされた部活の方々は特別にお疲れさまでした。

N GOLAZO

鳥島 令偉

サッカーワールドカップで一躍時の人となった我ら長崎が誇る森保一監督。サッカーの監督に初めて注目してみた方も多いのではないだろうか。サッカー界には多くの個性豊かな監督が存在する。現代サッカーをけん引している名将を二人紹介していこうと思う。

ジョゼップ・グアルディオラ

国籍 スペイン

指揮チーム 2008-2012 バルセロナ
2013-2016 バイエルンミュンヘン
2016-現在 マンチェスターシティ

通称ペップ。数々の世界的ビッグクラブを率いて黄金時代を築いてきた。現在が率いるマンチェスターシティが世界最高峰のイングランドプレミアリーグ連覇中で、今シーズンのチャンピオンズリーグ優勝の最有力候補だ。彼はボールの保持を前提として様々な革新的な戦術を世に生み出してきた。ゼロトップ、偽サイドバックなど現在多くのチームで実践されているシステムも彼が世に送り出してきたものだ。まさに現代サッカーの革命家といえるだろう。ペップの志向するサッカーは最先端で選手の基礎技術が要求される。そのため補強には糸目をつけず、非常に厳しく選手を管理する。どんな有名選手でも既定の体脂肪率内に入っていないと練習にも参加させない徹底ぶりだ。



ユルゲン・クロップ

国籍 ドイツ

指揮チーム 2001-2008 マインツ
2008-2015 ボルシア・ドルトムント
2015-現在 リヴァプール

クロップリヴァプールは前線からの激しいプレスと素早いカウンターによる攻撃を得意としている。最近ではプレスありきではなくボールを保持する展開においても相手を崩し切れるまでにチームを進化させてきている。彼は世界最強の熱血監督としても知られる。2018年のエヴァートンとのダービーマッチは後半アディショナルタイムに劇的勝ち越しゴールでリヴァプールが勝利を収めた。しかし、このゴールが決まった直後喜びのあまり我を忘れたクロップはピッチに入り選手と抱き合ってしまったのだ。監督がピッチに侵入する行為は禁止されておりクロップには8000ポンド(約117万円)の罰金が科された。そんなアツイ一面を持つクロップは全サッカーファンに愛される世界最強の熱血監督だ。ボルシア・ドルトムント時代には香川真司を指導し、師弟関係であった。



下級生が気になる！

医学部のあれこれ

上級生の皆さん、「下級生の時にこれを教えてくれる人がいたらよかったな〜！」と思ったことはありませんか？はたまた、下級生の皆さん、「聞きたいけどなかなか機会がなくて聞けないな〜」ということはありませんか？このコーナーでは医学部の勉強に限らず、大学生活全般に関する質問をQ&A方式で紹介！正解が一つとは限りませんが、役立つ情報があったら活用してみてくださいね！

夫津木綾音

ポリクリやクリクラ中のアルバイトはどれくらいできるの？

人によると思いますが、できると思います。実習は基本17時には終わるので、18時からバイトを入れている人が多いです。診療科によっては朝早い集合時間となるので、平日は夜遅くなるバイトを避けたり、実習中に課されるレポートや発表の課題を実習終了後に進めるためにバイト自体の数を減らしたりと、自分の体力と相談しながら、働き方を1-3年生のときよりも少し変える必要があるかもしれません。



初期研修の病院ってどうやって決めるの？

病院の場所、規模、給与、忙しさ、雰囲気、人気かどうか(倍率が高いか)、どんな疾患を扱っているか、手技をどのくらいさせてもらえるか、研修医の部屋があるか、夜勤の数、同期の数など、様々な要素から自分が何を優先するか考えて、研修病院を決めます。臨床実習が始まる時期あたりから、長期休暇を使って、複数の病院の合同説明会に参加したり、気になる病院に見学に行ったりしている人が多いです。数ヶ所しか見学に行かない人もいれば、20ヶ所以上回る人もいますよ！クリクラでは必ず1ヶ月は地域病院で実習しなければならないので、長崎での研修を考えている学生は、そういった機会でも研修病院を見学することができます。必ずしも希望した病院で研修ができるわけではありません。研修病院は研修医マッチングというシステムを使って決まります。ちょっとややこしいシステムなので、この説明は次回以降に引き継ごうと思います(笑)





クリクラ留学中の武田による「ケニア飯紹介」!!

記者 武田 玲依奈

毎度おなじみ「料理紹介」のコーナーですが、今回はクリクラでケニアに留学中の武田から、ケニアの食事情を紹介していきます!一部レシピも紹介しているので、ぜひ日本でケニアのごはんを味わってみては…。

ケニアの主食って何?

ケニアでは、ウガリ、米、チャパティ(薄焼きのパン)がよく食べられています。ウガリは、トウモロコシ粉を湯で練り上げたアフリカの伝統料理です。「日本食に例えるなら」と頭を捻らせ10分が経過しましたが、いい例えが見つからないので以下にレシピを載せています。あえて言うなら、触感は固めのマッシュドポテト、味はおからに似た感じ、でしょうか。ちなみにトウモロコシ粉は“maize flour”といって、通販サイトにも売っているようです。



beef with
チャパティ

主菜は何を食べているの?

街の食堂に行くと、Beef、Chicken、Nyama Choma(焼肉)、Mutton、Fish、Sukumawiki(ケールの炒め物)など様々な食材の料理があります。特におすすめはNyama Chomaで、スパイスとローストしてあり、ケバブのような味がして毎日でも食べたい料理の一つです。主菜は味がしっかりついているものが多く、手で一口サイズに成型したウガリと一緒に食べます。またケニアでは、TUSKERというラガービールが有名で、程よい苦みとドライな味で飲みやすく、ケニアの食事にも相性抜群です◎(実習終わりの疲れた体に最高の一杯です!)



Nyama Choma with ウガリ



TUSKERビール

今回紹介できなかった料理も山ほどありますが、ケニア滞在中にまた新たなグルメを見つけたら、紹介したいと思います。海外を訪れたとき、「その土地の食」を口にする事で、現地の人々との距離が縮まっていく気がします。独特な調味料の香りに包まれ、その地の新鮮な食材を知るなど、五感を使って味わえる食事こそ旅の醍醐味の一つと言えるかもしれませんね。

～ウガリの作り方(2人前)～

※作り方には個人差があり、ここでは現地の方に教わった最もシンプルなものに掲載しています。

- (1)水 2 カップを沸騰させる
- (2)沸騰したらトウモロコシ粉 2 カップを数回に分け入れ、しゃもじで練る
- (3)均一に混ぜたら蓋をして中火で 3 分蒸す
- (4)火を止め、お椀を使い半球状に成型して器に盛って出来上がり



蒸し終えたウガリ

病院実習中、ドクターたちがウガリの好みの固さについて議論を交わしており、日本のお米の炊き具合と同様、主食へのこだわりは世界共通なのだ、と聞いて面白かったです。

今号の映画紹介

“ロレンツォのオイル”

永田真理奈

副腎白質ジストロフィー(ALD)は、先天的な脂質代謝異常により蓄積した脂肪酸が脳の神経を破壊して、死に至らしめる疾患である。

1983年の秋、当時5歳のロレンツォにALDの診断が下される。医者は両親に現在有効な治療法がなく、ALD患者が例外なく二年以内に死亡していることを告げ、実験的に行っている食餌療法を提案した。まだ研究が始まって間もない、データの少ない時代の話である。治療は効果を表さず、悪化する容態を見かねた二人は医者の考案した従来の方法に疑義を抱いて自分たちで治療法を模索すると決意する。国立図書館へ通い、資料を漁り、字面通りの四六時中治療方法について考え……ある一つの論文をキッカケに、ALDの診断から32ヶ月後、オリーブオイルに含まれるオレイン酸と菜種油に含まれるエルカ酸から作られる「ロレンツォのオイル」による新しい食餌療法を発明した。



非医療職の、まったくの門外漢である二人が医学をゼロから学び治療法を完成させたのは明々白々に愛ゆえのものだが、それも狂気的な絶対不屈の愛ゆえのものだ。私が思うにこの映画は、難病を患った子供の悲しい物語ではなく、運命に立ち向かう家族の逞しく力強い愛と挑戦の物語である。父アウグストは、「医者の治療を先越すのは傲慢だ」と言われたとき、激昂してこう言い放った——傲慢の語源はラテン語のアロガシ、自己を主張するという意味だ。私は子供の命を守るために闘う権利がある。誰であって私の子供を救うため質問する権利を奪えない。

この映画は実話を元にしており、家族の結晶である「ロレンツォのオイル」は今でも多くの人を救っている。

“かもめ食堂”

杉山萌愛子

フィンランドのヘルシンキにオープンした「かもめ食堂」。店主は日本人女性・サチエで、店のメインメニューはおにぎり。毎日丁寧に机をふき、皿を磨き、なかなか来ないお客さんを待つ日々を送っていた。ある日、サチエは町で日本人女性・ミドリと出会い、ミドリはお店を手伝うことに。一人目のお客さんとなった日本好きの青年もお店に通い始め、もう一人の日本人女性・マサコも加わり、かもめ食堂は少しずつにぎやかになっていく。



かもめ食堂のコンセプトにはこだわりを持ちながらも、肩肘張らず日々を丁寧に送るサチエ。何か訳ありの様子で「遠くに行きたくて、世界地図を広げて、指さした先がここだった」という理由でフィンランドにやってきたミドリや、長年の親の介護を終え「フィンランドには観光に来たのかもしれないし、そうでないかもしれない」と少し不思議な一面を見せるマサコ。3人の女性のキャラクターはユニークで、それぞれのバックグラウンドも少し気になる。日本から遠く離れたフィンランドの地でもマイペースに生きる彼女たちを見てると、人はどこにでも根を下ろして生きていくことができるのではないかと思わせる。

フィンランドにももちろん人間ドラマはある。しかし作中に漂う雰囲気は日本よりも人間臭さが控えめで、人々がシンプルに生きているように見える。フィンランドという森の広がる国特有の、穏やかな空気感によるものなのかもしれない。

また、作中に登場する美味しそうな食べ物たちも必見である。香り高いコーヒーにコロコロ可愛いシナモンロール、サクサクのとんかつに、メインメニューの手作りおにぎり。夜中に観たことを少し後悔してしまった。

何かと慌ただしかった新年度が過ぎようとしている。新しい環境で、気づかぬうちに疲れがたまっていた心をさりげなく和ませてくれる、そんな映画であった。

編集後記

ケニアにクリクラ留学中の武田です。髪の毛をコーンローにしたり、ケニア飯を作ったり、スワヒリ語を勉強したり、ケニアに染まりきって日々を過ごしています(笑)実習ではどのドクターにも「具体的にここで何を学びたいの?」とまず聞かれるので、ガツガツいかなきゃ、と必死に頑張っています。新入部員も入ってくれたので、帰国後また賑やかになった新聞部に会えるのが楽しみです!
(6年 武田 玲依奈)

今年1月からはよいよ臨床実習が始まりました。たくさん新しいことに挑戦したり、グループ実習の影響で交友関係が広がったり、実習中に出会った留学生とお話できたりと、生活が少し変化して、最近とても楽しいです。Covid-19の制限も緩和され、今号ではリサーチセミナーや九山の結果等、学校行事に関する記事をお届けできることを嬉しく思います。次号は願わくば、医学展や西医体の記事が書きたいです。どうかいろいろうまく行って開催されますように……!
(5年 天津 木綾首)

新年度がはじまりました、早いものでもう5年生!私は先ほどポリクリでの実習先の1つの下五島実習から帰ってきたところです。離島の病院や診療所での実習は大学病院とは動き方も雰囲気も違っても興味深かったです。また、ポリクリメンバーに加えて、普段は関わらない保健学科の人とも生活を共にして、大学生になって経験することが少なくなりました。新しい友達ができるという機会も久しぶりに得られました。ゴールデンウィークも遊びまくってきます!
(5年 郡嶋 聖)

スギとヒノキの花粉が落ちていたと思ったら黄砂を食らってしまった、晴々とした空を見ると少し寂しくなる、そんな春を送っています。今年こそは舌下免疫療法でとりあえずスギ花粉を克服したい所存です。ぐびろ編集部にも花粉なしの新しい風を呼び込んでいきます!読者、編集の方々、今年度もよろしくお願ひします!
(4年 西山 樹)

4年生になり、自分が少しずつ歳をとっているのをより実感するようになりました。この前、入学式で1年生連達の集団に出会いましたが、皆さんとても若々しく眩しかったです。同時に自分もあれから歳をとったな、と少し寂しさを感じました。これからは、いい歳の取り方をしたいです、頑張ります!!
(4年 大石 佳奈)

海外リサーチ体験記にご協力いただいた学生の皆様、短期間の締めにもかわらず素晴らしい記事を書いたことにありがとうございます。今後海外リサーチを考えている3年生以下の皆様に参考になる情報が盛りだくさんです。ぜひ一読ください!今後とも、読者のみなさまの為になるような記事を提供できるよう努めてまいります。引き続きぐびろが丘新聞をよろしくお願ひいたします!
(4年 永田 真理奈)

今年度が始まりもう四年か!と過ぎる時の早さを痛感しています。今年はCBTなどもあるのでのほほんと過ごすわけには行かないな〜とぼんやり思っています。残りの学生生活も楽しく、明るく過ごしていきたいなと思います。
(4年 鳥島 令偉)

今年度より新聞部部長となりました、3年の杉山萌愛子です。授業は臨床科目がメインとなり、覚えなければならぬ知識の量に圧倒される日々です。学校の勉強も頑張りつつ、新しいことにもチャレンジして楽しい毎日を過ごそうと思います。
(3年 杉山 萌愛子)